

# EMERGENCY WATCH!

## 疾患頻度

1. 急性上気道炎・感冒	455人
2. 感染性胃腸炎	260人
3. 気管支喘息・喘息性気管支炎	145人
4. 気管支炎・肺炎	111人
4. 咽頭炎・扁桃炎	111人

No.84  
Dec.2017

## 神戸こども初期急病センター

# 2017年11月受診者数 1629人

気候も一段と寒くなり、気が付けばクリスマスの装いが街のいたる所で見受けられるようになりました。風邪が流行しやすい時期になりましたので、手洗いうがいを普段より意識して、体調を崩さないように気をつけて下さい。今月はRSウイルス感染症を採り上げてみたいと思います。

### Q1. RSウイルスとは？

いわゆる風邪の原因となるウイルスの一種です。一般に冬場に流行するとされていましたが、最近は夏ころから流行が始まる傾向にあります。

### Q2. RSウイルスに感染するとどうなる？

通常、発熱、咳、鼻水の症状が出る人が多いです。時に重症化することがあり、特に6か月未満の赤ちゃんでは、ゼイゼイというような喘息発作に似た症状が出る場合があります。逆に幼稚園に通っているような年齢以上の子どもたちに関しては、重症化するリスクは低いと考えられます。重症化して血中の酸素の値が保つことができなくなったり、おっぱいやミルクを飲めなくなったりした場合には入院が必要となることもあります。

### Q3. 治療方法は？

RSウイルスに対する特効薬は現時点ではありませんので、基本的には通常の風邪の時と同じで、熱が高くて元気がなければ解熱剤を使用したり、痰を出しやすくするために去痰剤を内服したり、鼻水が多ければこまめに鼻水をとってあげたりと、対症療法を行います。水分があまりとれないようであれば、こまめに少量ずつあげることが大切です。

### Q4. 注意することは？ 受診のタイミングは？

ゼイゼイして息が苦しそうで、おっぱいやミルクを飲む量が減って、おしっこの量も減ってきた、ぐったりして顔色が悪くなった、などの症状が出現した際には、夜間でも医療機関を受診することが望ましいです。逆にRSウイルス感染症と診断されても、上記のような症状がなければ、少なくとも夜間休日は医療機関を受診しなければならないという可能性は高くないと考えられます。感染予防対策が大切ですので、手洗いうがいをする、風邪を引いた家族とはできるだけ接触しないようにするなど心掛けて下さい。

### まとめ

- ・RSウイルス感染では、発熱、咳、鼻水など風邪症状が出現することが多いです。
- ・治療方法としては通常の風邪の時と同じく対症療法を行います。
- ・6か月未満の赤ちゃんは時に喘息発作に似た症状が出たりおっぱいやミルクを飲めなくなったりと重症化することがありますので、そういった際にはすぐに医療機関を受診してください。